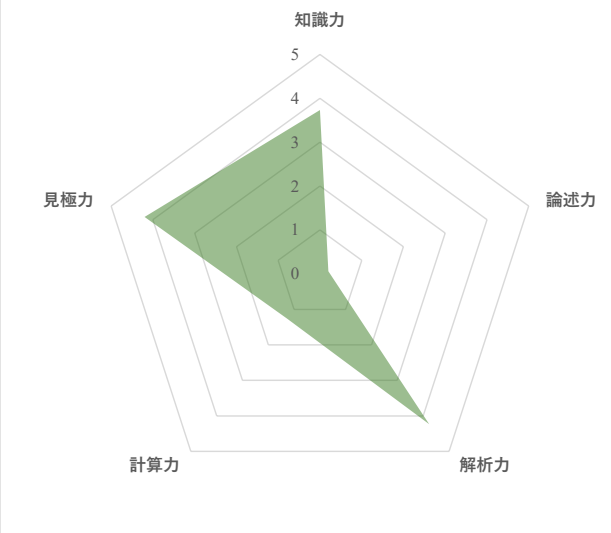


総合分析

試験区分	N方式
------	-----

制限時間	60分 (生物単科60分)	大問数	全 7 問
------	---------------	-----	-------

合格に要する能力 (5段階)

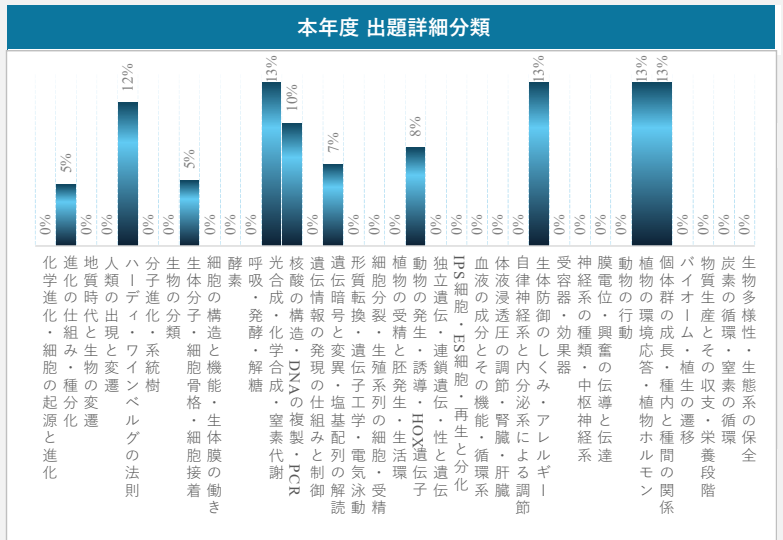


合格に要する能力 (5段階)		
知識力	3.5	出題分野の幅広い知識を有するか
論述力	0.0	設問の指定に沿って的確に記述するか
解析力	4.0	図表データなどから分析・解析するか
計算力	1.1	式を組み立て、正しく計算するか
見極力	4.0	難度を判断し、適切に時間配分するか

出題分野	
系統と進化	17%
生命現象と物質	19%
遺伝子	17%
生殖と発生	8%
生物の環境応答	13%
生態	27%

本年度 解答形式
選択肢 100%

本年度出題テーマ一覧	
第 1 問	光合成, 光リン酸化
第 2 問	バイオテクノロジー
第 3 問	カエルの発生, 細胞接着とカドヘリン
第 4 問	免疫, 自己免疫疾患, 沈降線
第 5 問	植物の環境応答, 光周性
第 6 問	個体群, 同種個体間の相互作用
第 7 問	進化のしくみ, ハーディ・ワインベルグの法則



特殊問題の有無	数理生物学なし	生物物理なし	ノーベル賞なし	範囲外問題なし	長文論述なし
---------	---------	--------	---------	---------	--------

特記事項	特になし
------	------

総合評価

難度	2.6	最難を 5 とする問題自体の難度	標準	一次合格に必要な正答率 (予想)	64%
分量	60分	完答に要する時間 (制限時間は60分)	標準	標準	

入試の特徴と対策	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 定石的・定型的な問題が多い。 ▶ 問題文が簡潔で、読解をほとんど必要としない。
----------	--

入試から見る大学が求める学生像	<p>リード文はほとんどないが、60分の試験時間のなかで大問が7つあり、時間的な制約が厳しい。それぞれの出題で難易度に傾斜があり、取り組むべき問題を見損なうと時間をロスしてしまい、大きな失点につながってしまうだろう。全体を俯瞰しつつ、標準的な問題をきっちりと仕上げられる安定感が求められる。</p>
-----------------	---